

特別講演 1

「高齢者の糖尿病治療 ～現在の課題と、これからの連携～」

市立敦賀病院 内科医長

毛利 研祐 先生

多くの先進国では人口が高齢化し、それにつれて高齢者糖尿病の患者が増加しつつある。我が国における糖尿病患者の増加は近年頭打ちになっているものの依然として高齢者では増加している。

高齢者糖尿病では、血管合併症に加えて、認知症、ADL 低下、転倒・骨折など、自立した生活を営む上で必須の身体機能あるいは精神・心理的機能に障害が多発し、予後のみならず生活の質にも大きく影響する。高齢者糖尿病の背景は多様であり、成人糖尿病の診療ガイドラインに沿った診療が高齢者糖尿病の診療に適用できるわけではない。認知機能や身体機能、社会的背景などへの配慮も、質の良い糖尿病診療を行うためには必要不可欠である。

このようなことを背景に、我が国を含めて世界各国で高齢者糖尿病診療ガイドラインが作成されている。しかしながら血糖コントロール目標値についても、一律な目標値ではなく、其々の患者の身体的機能、精神・心理的機能、社会背景を十分に考慮にいれ定めるべきとされており、実地臨床において判断に苦慮することも少なくない。

各国のガイドライン、臨床研究などを踏まえ、高齢者糖尿病の特徴、診療において理解しておくべきポイント、認知症との関連、地域医療連携との関わりについて概説する。